30E13-am09

医師からみた薬剤師

○伊藤　亜希[1], 宗形　佳織[3], 今津　嘉宏[2], 渡辺　賢治[3]（[1]青山薬局, [2]北里大薬, [3]慶應大医漢方医学セ）

【目的】2006 年から大学の薬学部では薬剤師の専門教育が 4 年制から 6 年制課程に移行した。6 年制課程では実務実習が必修となり、より臨床に重きをおいた教育が始まった。また、政府は患者にとって質が高く安心で安全な医療を提供するためにチーム医療を推進している。このような状況の中、現在も死因のトップであるがんの診療を行っている施設の医師に薬剤師の実態と要望についての調査を行った。【方法】がん診療を中心に行っている全国の合計 393 施設に調査の依頼を行い解析した。【結果】有効回答は医師 900 名であった。医師が一番強く薬剤師に求めている項目は禁忌についての知識であり、一番満足している項目も同じであった。しかし、すべての項目で必要度より現状評価が低かった。さらに現状よりもっと求めている項目の 1 位は妊婦授乳婦への薬の知識、2 位は適応外使用の知識、3 位が漢方薬の知識であった。93.9％の医師が医療業務上で薬剤師に助けられたと答えていた。一方、医師が薬剤師から迷惑を被ったと答えたのは 23.2％であった。最後に薬剤師に改善してもらいたいことがあると答えた医師は 21.3％おり、1 位は服薬指導、2 位が薬の知識と専門性、3 位がチーム医療としてのかかわりを改善してもらいたいと答えていた。【考察】通常の業務において、多くの医師が現在の薬剤師についてある程度満足している結果が出た。しかし、2 割の医師が薬剤師に改善を求めており、患者にとってより良い医療が提供できるように今回の結果を踏まえ、チーム医療の現場で必要とされる薬剤師像を確立していく必要があると考える。